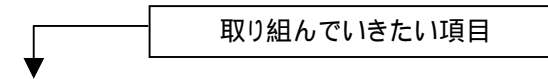


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自立、希望、感謝の念を持ち続けられるよう心のケアをモットーに支援している		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者様への対応 = 心のケアについては、毎朝のミーティング、毎月の月例会議でも必ず話している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域向けに特別何かをしているかといったら、出来ない		納涼祭やクリスマス会等の機会に近隣住民をお誘いし、来ていただいた事もあるが、毎回は出来ないなので、もう少し機会を増やし、理念についても話をする機会をつくっていききたい。また広報活動も行なう
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎朝中庭で利用者様が水をまいたりするが、その際登校する小学生に挨拶をし、毎日の散歩の際、近所の菓子屋、パン屋等に寄り道したり、天気の良い日に庭でお茶をしていると、近隣に住むお年寄りが立ち寄り、一緒にお茶をしたりしている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長からお誘いをいただき、地域のお祭りに参加し、朝市に出店したり、可能な事は極力参加している。また地域の婦人部の方々に慰問に来ていただいたりもしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	とくに、実績として行なった事はない		地域の高齢者の為に何か役に立てる事があるか、是非話し合ってみたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果で要改善とされた項目、家族のアンケート結果で前年よりも評価が下がった内容については職員の会議で話し合い、運営推進会議でも改善項目にどう取り組んでいるか等を議題にしていかしている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まさにサービスの実態、評価への取り組み等が運営推進会議の議題としている事が殆どである。またその場で指摘された事等については、次回の会議でどう改善したかなどの報告も行なっている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に市町村担当者が来た事はない。クリスマス会 & 家族会に誘った事はあるが、日曜日である為かお越しいただいた事はない。こちらからいろいろな相談に役場の窓口に行く事はたびたびある		なかなか具体的にどのように関わりを深めていっていったら良いのかわからず、相談をした事もあるが、役場もはっきりとした解決案は出せないようだ。まだ模索する必要がある
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今だ必要性を感じる機会が無いため、研修等の機会があっても、(有料である事や、時間が取れない事)等を理由に後回しにしている		専門家に研修を依頼し、グループホーム内での研修を検討したい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法については、研修等の参加は行なっている。虐待は無いが、虐待の意義をきちんと理解しておらず、虐待とっていない事などはあるかも知れないという視点から対応の仕方等については、話し合っている		虐待についての職員研修を行なう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>問い合わせ時、見学、申し込み時、入居者様面談時、契約時、入居日と入居に至るまでの過程の中で、十分な話し合いを行なっている。解約時も同様、きちんと話し合いは行なっている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者、計画作成担当者が介護計画を作成する際利用者様一人一人と居室にて話し合いを行なっている。その際、いろいろ聞き取りを行なうので、そく対応している。必要があれば、話し合いを行なっている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>とくに利用者様に変化が無い場合は家族が来訪した際に、近況報告をしているが、特別な事があった場合は、電話にて報告をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の時に家族から要望等をお聞きしている。意見、不満がある方は来訪時に管理者に直接お話される方もいる。玄関にご意見箱も設置し、メッセージカードをいれていただけるようにもなっており、その内容は運営に反映できている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎年職員との個別面談を行なっており、その際いろいろな意見がでるので、反映できている。またご意見箱に職員の投稿も呼びかけている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な考えで、勤務の調整は行なっている</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者や職員の移動や離職は殆どない。職員側の都合での離職が今までに数名居た程度である</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会や埼玉看護協会の研修等にほぼ全員順番に受講させている。また月例会議等の機会に講師を招き研修を行なう事もある		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣にあるグループホームの職員が利用者様を数名お連れになり、一緒に歌を歌ったり、レクを行ったりしている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員にメンタルヘルスケアの研修を行ったり、定期的な職員の食事会を行ったりしている		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者が全職員と面談し、個々に努力や実績を評価している。また賞与等にも反映させている		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様本人とは、入居前に必ず面談を行なうが本人の訴えは、殆どないが、本人の様子等からいろいろな思いを受けとめるよう、心がけている。安心していただけるような不陰気づくりはこころかけている		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どちらかという、本人よりは家族が困って相談に至る事が殆どであるが、とにかくひたすら話を聴く。聞き出すようにはしており、求めている事、不安な事などにたいしては、きちんとした回答、対応をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いろいろな相談ケースで来訪があるが、とりあえず話を聞き、介護保険の導入やその方の状態にあった施設の入所の提案などをした事もある		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	慣れるまでは、しばらく家族にも毎日日中通っていただく事もある		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や日々の会話など日常生活において知識を授かったり体験などを聞かせて貰う事により向上させていただいている。レク活動等で一緒に喜びを共有し合っている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会にいらっしゃった際レクの時間帯等でタイミングがあれば参加していただいたり定期的に催している家族会にて皆で一緒に時を過ごす機会を作っている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつでも面会に来られる状況をつくり家族の繋がりが希薄にならない為の環境をつくっている。本人の希望があれば電話での連絡もとっている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な場所や環境があれば、本人の希望の場所へお連れする事もあるが、こちらで対応出来ない場合は家族に相談し、面会や連れてっていただく事もある		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レク活動の際は皆で一緒に集まり遊戯や会話を通じて関係を構築していただく。孤立している利用者様が居た際はスタッフが声を掛ける等して関係を構築している		スタッフがいつでも声を掛けられる状況にはないので孤立させてしまう機会が発生してしまう事もあるが極力その様な状況にならないよう努めていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、家族とのかかわりが継続しているケースもある		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でその時々希望があった際は即座に対応する。即座に対応が出来ない場合はミーティング等にて検討し、本人にとって良いと思われる方向に導く		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に細かく情報を提供していただいている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝晩のバイタルチェックにて心身状態の確認、生活の記録を時系列で記す事により一日の生活リズムを把握するのに役立つ		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画をつくる際はミーティング等で広く意見を取り入れ、それを基に話し合い、本人や家族の意見をまとめている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ミーティングを毎朝行なう事により日々の生活の現状を把握し変化のあった場合は即座に対応出来るよう努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録を時系列で記録を付ける事により認識を深め介護計画に役立てる。ミーティングにより情報を共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	とくに思い当たる事がないが、家族が入居者様の居室に宿泊したケースがある		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、警察、消防等は全て関わりを持ち、協力して頂いている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に無い		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に無い		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力指定病院があり、希望が無い場合はそちらへお連れするケースもあるが、もともとのかかりつけ医が有る方はそのまま継続している方も多数いる		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣に認知症の専門で、ちゃんと見て頂ける専門医が居ない為、相談の機関がない		気軽に相談でき、受診もでき、きちんと見ていただける専門医を確保したい
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特別看護職との関わりはない		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様が入院になった場合は担当医、家族との話し合いを充分に行い、一日でも早い退院に向けて連携をとっている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期といった場面に遭遇した時はその方にあっただ対応、一番良い方法を家族、担当医とも話し合いを行なっている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者様の状態として医療行為が必要でなければ、可能な限り支援をするという事は今までにも職員会議の中で話し合いを行なっているが、利用者様の状態によってであるので、常に、担当医、家族、職員と話し合いながら、対応を検討している		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームから直接他の施設等への住み替えは、今までになくしばらく入院していて転院のケースがある。こちらから提供できる情報は行なっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人個人にあわせた声掛けを行い不適切な対応をしてしまった際には他のスタッフにも報告し対応の仕方を向上させている。個人情報の取り扱いについては第三者の目に届かない処に保管してある</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>訴えが有る場合には可能な事は支援を行なう。又希望の表出のない方に対してもこちらからアプローチをしている。その他随時自己決定の機会を作っている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的にはタイムテーブルに沿った生活を送っている。希望のあった際には可能であれば叶える</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的に訪問美容室に来ていただき本人の希望を叶える。望む店がある場合は家族の協力をいただいている</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>それぞれ可能な事をお願いして協力していただいている</p>	<p>こちらで出来る事を線引きせず色々な事をやっていただき、可能性を拡げていただきたい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつのお買出しにスタッフと一緒にいたり希望を聞いて購入している。飲食物はすぐの届かない所にあるので訴えがないと提供出来ない</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>時間誘導の実施、ポータブルトイレの使用をしている。又排泄状況を表に記入し、個人の排泄パターンの把握に努めている。オムツ着用の利用者様も尿意便意の確認を行い意識して貰うようにしている</p>		<p>オムツ着用の利用者様が減るように取り組みたい</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日、時間帯はこちらで決めてしまっていたが、利用者様の希望は聞き入れるようにしている。今のところ特に希望は聞かれない</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>ベットの配置、照明の明るさ、個々に対応している。現在は希望者がいないので実施していないが、畳をしき和式生活をした事がある</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>女性利用者様が多いので家事、裁縫等日常的に行なっている。他には園芸、ゲーム(囲碁・将棋等)利用者様の趣味に合わせた支援をおこなっている</p>		<p>利用者様の詳しい生活歴や趣味等を職員全体で共有しより個別化した支援を行ないたい(利用者様本人やご家族様から詳しい情報を得られる様に時間や環境をtる繰り返したい)</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>所持できる力がある利用者様には管理を任せている。希望は有るが管理は「難しいと思われる利用者様には職員側で管理している</p>		<p>管理が難しいと思われる利用者様や管理ができそうだが利用者様に対する支援方法を考えて行きたい</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物や散歩等日常的に行なっている</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者様の重度化等もあり全体での外出は年々減ってきてしまったが、その分小グループ、個別での外出支援を行なっている。家族との外出はこちら側から特に機会は設けていないが、よく外出できている</p>		<p>身体機能が低下してきている利用者様の外出機会が減らないようにご家族の協力も得ながら実施して行きたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話を使用できる場合は、自由に使用していただいている。又、希望があった場合には職員が電話をかけたり、代筆等を行なっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも開放しており、来訪者があった場合には自室でゆっくりして頂いている。又、ホールに給湯器(お茶・コーヒー)を設置し、職員等に気兼ねすることなく過ごしていただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	大まかな理解はしているが、正しい理解には至っていない。しかし身体拘束をしないように、話し合いを行い最善のケアを目指している。		話し合いを重ね、やむを得ず拘束することになってしまったケースに対して、経過・状態を細かに観察し、更なる話し合いを重ねて拘束をはずすこと・拘束をしないことを目指す。(拘束したことで安心しない環境作り)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	交代勤務(4交代)で支援している。又、引継ぎノートを利用して日中・夜間の情報交換を行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その様に行なっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々のスタッフで気をつけている状態であり(研修会等に参加はしている)共通の認識には達していないように思う。		マニュアル等を作成し、職員全体の共通認識としていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が普通救命講習を受講している。又、年に1回消防訓練の実施。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼して年に2回消防・非難訓練をおこなっている(利用者様も参加)地域の人々への働きかけは特に行っていない		消防訓練等に地域の方も一緒に参加して頂くなどの働きかけを検討したい。次回の運営推進会議で自治会長へ相談してみる
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホームならではのリスクについては、入居時に充分話をして理解していただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	その様に行なっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況がすぐに確認できるように(用法や用量、副作用)表を作成し貼り出している。又、服薬支援を行なう職員の分担と服薬支援後にチェックする表を作っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳や野菜ジュースを飲んでいる。利用者様によって医師と相談しながら下剤を処方してもらっている。余暇の時間を利用して体操や散歩など、身体を動かすようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後にはできていないが、歯磨き・デンタルリンスを利用するのがいい義歯洗浄剤の使用等、利用者様に合わせた支援を行なっている。毎週1回訪問歯科を利用し、口腔ケア・治療をしてもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者からメニューに基づいた材料を配達してもらっているので栄養のバランスは問題ないように思う。水分は状態や要求に応じて補給していただいている。		利用者が年齢を重ねていくと、更に様々な病気(糖尿病・透析等)になってしまう可能性もあるので、そういった時に個別化した食事等に対応できる様にしていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	薬品を使用し消毒を行なっている。又、研修会に参加し感染予防に対して意識を高めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	専門業者から週5回、材料を配達してもらっているので新鮮な食材で調理できている。用具についても、衛生管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はガラス戸で、中が見えやすく、明るくしてある。又、花を飾ったり、季節・行事に合わせた装飾をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その様に行なっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の所々にソファーや椅子を配置して、利用者様の好きな場所ですごしていただけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その様にしている。利用者様それぞれの特色が出ている部屋になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に換気扇が設置してある。又、窓もあるので換気はいつでもできる。エアコンも各部屋に設置してあるので状況・天気等に合わせて調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し、段差も少なくなっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる力に働きかけるようになるべくいろいろな声掛けを行っている。できる事はなんでもやっていただいている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇があり、野菜作りなどを楽しんでいる。又、ベンチ・テーブルもあるので、気候の良い日にはそこでお茶を飲んだり、おしゃべりを楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に つけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開所以来変わらず勤務している職員が半数以上である。利用者様とも本当の家族のように良い関係が築けている。毎日大切に思っている事は利用者様と職員が何でも一緒に楽しむ事である。毎食の調理・あと片付け・洗濯物の干し・取り込み・たたみ・犬の散歩・買い物など、利用者様の役割分担のようなかたちが自然にできて、みんな自分の出番だと言わんばかりにいきいきと取り組んでいる。われわれの職務はそのやる気を失わない為の支援である事を忘れずに業務を遂行している